



# 森のなかま

2014年5月号

NO. 73 (継続218号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会

<http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0014

厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館

TEL 046-280-4101・FAX 046-280-4102



平成25年度

## 「成長の森 植樹会」開催

平成26年3月8日(土)

< 副理事長 坂齋 明 7期、>

「かながわ森林再生50年構想」を踏まえた平成25年度成長の森植樹会が平成26年3月8日(土)に開催されました。この事業は子ども達の健やかな成長と「成長の森」の成長を重ね合わせて、森づくりの大切さを知っていただくための事業で、平成25年度からは「県立21世紀の森」での開催でした。植樹会ではかながわ森林インストラクターが現地へのご案内と植樹指導を務めさせていただき、参加者は340名(内子ども118名)でした。

参加者は唐鍬を使い植え穴を掘り、次世代への花粉症対策としての「無花粉スギ」を植樹しました。植樹は1家族4~5本でしたが、10本以上も植樹した頑張りご家族もありました。植樹後は参加の記念として苗木を植樹した場所に設置されたお子様のお名前を記した銘板の前でお名前を指先、記念撮影をされているご家族のほほえましい光景が沢山見られました。参加されたご家族は皆さん楽しみ、満足されたご様子うかがえました。

植樹場所は下草刈りなどの整備を行いながら大切に育てられますが、お子様とともに大きくなる「成長の森」の成長が楽しみです。

最下部より(次回以降植樹場所を含め)上部を見る



植樹は神奈川県産の無花粉スギ

上写真▼部より下部(今回の植樹場所)を見る



一部には未だ2月の残雪が



バス到着



門を抜け植樹会場へ



混雑する受け付け



ピカチュー?もお出迎えます。



苗木、道具を受取り 植樹場へ



我が子の名前はどこかな



インストラクターより植樹方法の説明

< 星野 澄佳 13期 >

穏やかな晴れの朝、植樹が始まりました。杉の苗木を明るい斜面に植えていきます。

参加された方の作業をみていますと、苗の根に土をかぶせて‘引き上げながら、踏み固める加減’が難しいようです。

穴掘りは‘水をためるバケツのイメージ’、根に土をかけ踏み固めるときには‘根が広がった状態をつくるイメージ’とお伝えすると、コツをつかめたようです。

イベントのお手伝いの学生さんからは、「根を痛めないようにするのが難しいですね」と。このあたたかい気持ちを受けて、森が健やかに育つよう関わりたいと感じました。

あるお嬢さんより、「水はあげないのですか?」とのご質問。

「水を吸い上げて、自然に育っていけるように植えてあげるのでよ」とお話ししました。

参加者の皆さんとのふれあいの中で、子どもの未来を思い、木の成長を願うご様子より

「未来へ、おおきく」・・・そのような気持ちが伝わる一日でした。

皆さん一斉に植樹です



植樹完了です



たくましい少年の鋤使い



こちらは経験豊かなお爺ちゃんの鋤使い



インストラクターの補助で大事な植樹



上手に植樹



植樹を終えて休息所へ



皆さん昼食です



しずくちゃん登場



丸太切りとロケットラン

全てを終えて帰路



我が会のグッズ販売



(写真撮影: 宇田川氏 13期、広報 松本)



箱根の文化と自然を満喫

森林文化部会「寄木細工体験」と「箱根路散策」  
平成26年3月29日(土)曇りのち晴れ 参加者22名

< 森林文化部会 内野 ミドリ 9期 >

箱根湯本



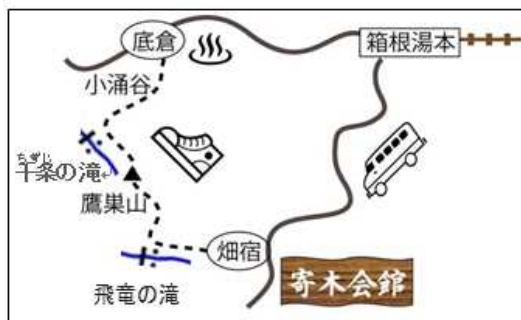
畑宿

旧東海道の  
一里塚  
(江戸から23里)

寄木細工体験

寄木会館 職人さんから寄木細工についての解説を聞き、模様ができるまでの行程をじっくり見学しました。有色天然材の色彩と木目を生かし、幾何学文様に表現した繊細で緻密な種木(たねぎ)の作り方や、種木を鉋(かんな)で薄く削る作業、木象嵌(もくぞうがん)という天然木材を用いて絵画や図柄を表現する木画技術を紹介していただきました。

(筋金入りの職人 館野 実 氏 右)

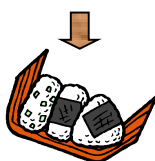


コースターづくり

40個のピースを組み合わせて作りました。この工房では箱根駅伝の往路優勝校へ箱根町長が贈るトロフィーを制作しています。(金指ウッドクラフトにて)  
(左 写真提供 鈴木松弘氏◎)



(水量も多く豪快な感じの飛竜の滝)



箱根七湯  
底倉温泉



宮ノ下



箱根路散策 畑宿～飛竜の滝～湯坂路入口～鷹巣山～千条の滝～小涌谷～底倉温泉～宮ノ下



散策中に見られた花

- ハナネコノメ (左)
- イボボタン
- ヤマネコノメソウ
- コチャルメルソウ
- シュンラン
- フキ、キブシなど

箱根寄木細工は、国の『伝統的工芸品』の指定を受けています。(県内では3つで、他には鎌倉彫、小田原漆器)日常生活の中で使われている、主要部が手づくり、伝統的な技術又は技法が守られている、天然の原材料、産地が形成されている…厳しい条件を満たしています。

春を感じた散策は交流の場になりました。底倉温泉も「いいお湯」でした。

(担当: 福島 孝弘 9期、内野 ミドリ 9期)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。



## 小田原市いこいの森にて「ふるさとの森づくり運動 ～植林～」イベントに参加して

日時：3月15日(土) 9:00～15:00、快晴

## &lt; 理事 水口 俊則 9期、稲野辺 健一 13期 &gt;

前日まで暴風雨で心配された天候も、当日は快晴に恵まれ、総勢約150名が参加しての大イベントでした。

「ふるさとの森づくり運動」は小田原市を中心とした「ふるさと森づくり実行委員会」が主催し、平成15年からドングリの木など広葉樹の苗木を植林するなどし、郷土の森林に触れることで、森の知識や森と人の関わりなどについて理解を深めることを目的に始められたそうです。

H23年度までの14年間に久野地区で18500本(10.5ha)が植えられ、昨年からは「いこいの森」へ場所を移し、今年も昨年同様の600本近い苗木(コナラ、イロハモミジを主とした約17種の広葉樹)が準備されました。



&lt;開会式の様子&gt;

参加者は近くの小学校(4校;三の丸、芦子小、足柄小、久野小)の児童及び保護者、福島の子供たち、一般

公募、市議会の方、実行委員らスタッフで、子供80名、大人70名の賑やかな会場となりました。午前中の植林作業は、私達がいつもお世話になっている小田原市森林組合の方と我々森林インストラクターの指導のもと、親子や子供同士で助け合いながら、慣れない鍬で穴を掘り、苗木を植え竹ぐしを挿し、

シュロ縄で倒れない様に結ぶ作業をしました。1時間程の作業でしたが、子供たちの元気な声が森に響き渡る中、すべて植えることができました。



&lt;子供たちの元気が声で会場一杯です&gt;



作業後は昨年の植林エリアも見学し、子どもたちが大人になった頃にはここの一面が、どんぐりの木やカエデなどで色華やかに覆い尽くされている景色を想い描いたりもしました。

お昼はいこいの森の広場に移動し、地元のボランティアの方による温かい豚汁とお弁当が振る舞われました。午後は木工クラフト体験や、チェーンソーカービングの実演(ワシとフクロウの素晴らしい彫刻)も行われ、森や木に親しむ楽しいひとときでした。将来、植えられた広葉樹の間伐材などでクラフトのいろんな材料がたくさんできるといいですね。



&lt;チェーンソーカービングの実演&gt;



&lt;クラフトで何を作ろうかな?&gt;

昭和20年代、相模の海にはブリがたくさん生息していましたが今はほとんどいないそうです。小田原市と諸団体が取り組んでいる「ブリの森づくりプロジェクト～ブリは小田原のなりわいと豊かな海の象徴です～」は、水源林整備とともに、森から、里(川、メダカ、たんぼ、家庭、企業...)そして海までの、命をつなぐ水環境の再生をめざす取組をしているとのこと。今回の活動が小田原市のゆたかな自然環境づくりの取り組みの一貫として来年度も予定されているそうです。ブリの大漁のニュースが待ち遠しいですね。

(参加インストラクター8名; L水口⑨、渡部⑦、村井⑨、内野⑨、杉崎⑩、大塚⑩、西出⑩、稲野辺⑬)



## 森林癒し部会研修会 『町田・三里里山・森林癒しのいざない』

日時：2014年3月23日(日) 晴れ

## &lt;森林癒し部会 山下 剛史 11期 &gt;

めっきり春らしくなり、カワヅザクラ、ハナモモの咲き誇る町田市の三輪をフィールドに森林癒し体験研修会が開催された。この地は、本会の久保理事長の紹介、協力を得て、里山での癒し体験の場を提供していただいた。森林部会や自然観察部会等で活躍している方々を含め総勢23名の多様な参加者があ



樹冠のゆらぎ体験

った。「ただの伝達研修の場だけでなく、相互に交流できる癒し体験をして研修を進めましょう。」の高崎部会長の挨拶、久保理事長より、里山での癒し体験の場としての説明、高橋担当ら運営委員より、ねらい、安全対策について説明、自己紹介をした。

まず、上田亜矢子氏(森のヨーガセラピスト)による癒しの準備運動、体の状態を探りつつ目を閉じてほぐしを感じながら、足首、膝、腰をまわし、肩、首をほぐして両手を合わせて、挙げる下げるの深呼吸で終了。癒しプログラムはコースの特徴に合わせ、5つのポイントで5つのプログラムを行った。

ポイント①、尾根道を登り、樹冠のゆらぎの体験。クヌギ、コナラ、シデなどの好みの樹木の根元にシートを敷き、寝転んで、木々の枝、幹の樹冠のゆらぎを感じ取る。目を閉じて季節に合った心地よい風を感じると良い。

ポイント②、木肌を感じて、好きな木を触ったり、抱きついたりして樹木のぬくもりを感じ取り、対話をしてみた。

ポイント③、休憩の間、ハーブティーを飲み、心身にリラックス作用を体験した。

ポイント④、呼吸法の習得、丹田を意識した腹式呼吸に挑戦した。

ポイント⑤、古墳見学を経て、里山林での座観。里山の景観をゆっくり座って眺めた。

集合地点に戻り、ヨーガを取り入れたクールダウン。太陽の呼吸法、手を握ってのほぐしを意識したストレッチ。最後に、シートの上に寝転び、陽の光を浴びてのヨーガ体験だった。「自然と一体化し、感謝しましょう。」の挨拶で、研修会を終了した。参加者の声として、「いろんな手法を学ぶことができた。腹式呼吸の習得ができた。」等々の声が聞かれた。この研修を通して、案内人活動、ネットワーク活動等に癒し体験をさらに活用していただきたい。



森林ヨーガ体験

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水環境の  
保全・再生をめざして

おけがのない神奈川の森を守るために

森のめぐみ シリーズ

森のめぐみの掲載は、  
今月号はありません。  
来月号はあります。

## 活動短信

今回の掲載は  
2月22日～3月7日です。  
投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号以降の掲載になるものもあります。  
予めご了承下さい。

## ◆ 日揮株式会社 寄周辺ハイキング

日 2月22日(土)10時～13時、曇り

場 寄 宇津茂地区

参 大人5名、子供1名

イ L水口⑨

計画では秦野林道を散策する予定であったが、大雪の影響で宇津茂地区のロウバイ園を中心に散策した。ロウバイは雪の影響もあったのか、花はほとんど終わりの状態で残念であったが、ロウバイの特徴(雌性先熟、果実)は充分観察できた。小1のお子さんがロウバイの香りを、好きな紅茶のジャスミンの香りに似ていると…。確かにジャスミン！子供の感性にまたまた驚かされた。

寄の町並みを眼下に周遊コースを1周。沿道の河津桜の蕾も、はちきれんばかりの大きさで、すでに数輪の開花した花に心踊らせながらのハイキングだった。スマレ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザなど可愛い花にも春の訪れを垣間見た。冬芽をルーペで観察することで冬芽観察のおもしろさも体験していただいた。

最後はガスで沸かした暖かい春雨スープとコーヒーをいただき、楽しい昼食会で暖をとった。

(記 水口 俊則 9期)

## ◆ 岩崎学園附属 磯子幼稚園

森の教室「どんぐりくんと森の仲間たち」

どんぐりの植え付け

日 2月24日(月) 10時～11時30分、曇り

場 岩崎学園附属 磯子幼稚園

参 園児 82名、保護者約 50名

園長 小泉様、保育士等 6名

森の教室スタッフ 数名

(公財)国土緑化推進機構 青木理事

(公財)かながわトラストみどり財団 内海課長

主催 (公財)国土緑化推進機構

(公財)かながわトラストみどり財団

協賛 ファミリーマート

取材 テレビ神奈川 報道局長 岩田様他、JCOM、

毎日新聞社 水と緑の地球環境本部

つながる森のプロジェクト担当部長 山本様

イ L村井⑨、中島⑨、江頭⑬、小川⑬

早朝7時50分 JR 磯子駅に集合し、ミニバス「こまわりくん」で現地へ向かい、初めて訪れた磯子幼稚園は住宅街の坂の途中にあり、予想以上に大きな建物であった。出迎えてくださった園長先生は終始にこやかにされていて、さすがに幼い子供たちと接している方だなと思いました。

10時から国土緑化の青木理事のご挨拶とみどり財団の内海課長のご挨拶の後、どんぐりとエコロンのマスコット人形を交えた「どんぐりと森の仲間たち」のショーがあり、インストラクターの中島さんのどんぐりの詳しい話に目を輝かせて聞いていたのが印象的でした。(3社のプレスと広報部の取材が入りました。)

園児たちはスタッフとともに森の体操や記念写真を写して、園庭へ出て三班にわかれ「腐葉土」と「培養土」の入った小さなポットを貰いコナラのどんぐりを二個ずつ植えました。82名の園児たちは幼稚園の先生方とインストラクターの手伝いを受けながら、楽しそうに作業をしていました。小さな両手で大切にどんぐりを植えたポットを持っているのがとても印象的でした。真冬の外での作業にもかかわらず、園児たちは楽しそうに動きまわっている様子にさすがに「こどもは風の子」と実感しました。一時間ほどでどんぐりの植え付けが終わり、庭で記念写真を写し終了しました。このように幼いころから森の大切さや自然の大切さなど身を以て体験していれば、将来大人になった時に心のすみに大きく育っていることと思えました。

帰り道、私たちの活動の大切さを実感した一日でした。

(記 小川 和恵 13期)

(磯子幼稚園にて)





## ◆岩崎学園付属 新横浜保育園・新横浜第二保育園

## 森の教室「どんぐりくんと森の仲間たち」

## ドングリの植え付け

日 3月6日(木) 9時～11時30分、晴れ

場 岩崎学園付属 新横浜保育園

参 園児 143名、園長2名、保育士11名、  
学校法人 岩崎学園経営企画部 進戸様他1名  
森の教室スタッフ6名、

(公財)かながわトラストみどり財団 内海課長

主催 (公財)国土緑化推進機構

(公財)かながわトラストみどり財団

協賛 ファミリーマート

イ L村井⑨、中島⑨、江頭⑬

”つなぐ・広がる 緑のリレー・プロジェクト”のプログラムで進行。かながわトラストみどり財団、内海課長のご挨拶で始まりました。

次に、森のお姉さん、森のおじさん、どんぐりくん、エコロン(どんぐりくん、エコロンは着ぐるみ)が登場。大きなパネルを使いながら、森の果たす役割をクイズ形式で子供たちと楽しく勉強しました。森の体操、記念撮影の後、いよいよ”どんぐり植え”です。

強風のため屋上での作業予定を急遽室内に変更。どんぐりの植え方を説明。

五歳児40名が腐葉土、土の入ったポットにどんぐりの種を2個横に並べ、土をかぶせました。

この後、みどり財団から、記念品の贈呈(紙芝居)、ファミリーマートから絵はがきのプレゼントがあり、みんなで「どんぐりをしっかり育てていきます！」プロジェクト宣言をして閉会となりました。

森の大切さのお話のすぐ後に自分で種を植えることは、子供たちの心により深く残るのではないかと思います。クイズの時には元気がはじけそうだった子供たちが、どんぐりの種を扱うときは、そーっと、大事にしている様子が印象的でした。

(記 江頭 淑子 13期)

## ◆川崎市立日吉小学校 自然観察

## やどりきを歩いて何かを感じ見つけよう！！

日 3月7日(金)、曇り

場 やどりき 水源林

参 小学5年生 110名、教師 7名

イ L小野⑦、井出①、高崎④、宮本④、白畑⑦、

武者⑦、渡部⑦、内野⑨、村井⑨、酒井⑩

当日はこの時期としては予想外の寒さで終日曇天、時々小雪のちらつく天気となったが生徒諸君は元気一杯、定刻からの開始式では「しっかり見て、体感して、説明を良く聞いて、質問して安全に注意して心に一杯お土産を持ち帰りください」と挨拶のあと、

Aコース(成長の森H22, 23, 24)3班、

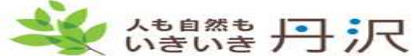
Bコース(通常のBコース+林道の一部)3班、

Cコース(林道+成長の森H19)4班

で巡回開始、昼食はそれぞれのコース内にて適宜、班別に済ませることにした為、時間的には余裕のある観察が出来たと思われる。

途中では落ちた杉の枝を踏んで花粉が飛んだり、サッカーボール状の栓球果や鹿柵、ムササビ樹洞やミツマタ(1万円札の原料)等発見したりも多くまた、村井理事のお骨折りでくしずくちゃん>パンフを担当部所から入手頂き、学校へ届け事前学習をお願いした結果しっかり学習に取り入れて頂いた為生徒の知識、理解度も素晴しかったこと付記します。桜美林大学エコトップ生3名も各班と一緒に歩いて頂きました。

(記 小野 幸弘 7期)



丹沢の自然再生に取り組む  
丹沢大山自然再生委員会ホームページをご覧ください。  
<http://www.tanzawasaisei.jp/>

投稿概略フォーマットと略語の説明

日: 日付 (できれば時間と天気も)

場: 場所

参: 参加者

県: (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

財: ((公財)かながわトラストみどり財団) 看: 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ: インストラクター (○数字: 期) 研: 研修枠

(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

**やどりき水源林  
ミニガイド**

**4月のトピックス**

集会会場前の川向こうに現れた  
ビッグスター “カモシカ”



(4月10日 佐藤恭平氏1期 撮影)

**5月の水源林**

またカモシカが現れるかも？  
様々なウツギが咲き誇ります。  
鳥も昆虫もたくさん来ています。

**「森の案内人」情報**

- 実施時間: 毎週土曜・日曜  
AM10時・PM1時, 1~2時間程度
- 集 合: 水源林入口ゲート前
- 内 容: 森林インストラクターが自然  
観察にご案内します。森林のしくみ  
手入れなどについて説明致します。  
参加自由、参加費無料
- \*10人以上の団体は事前に下記ま  
でご連絡ください。
- 問合せ: (公財)かながわトラス  
みどり財団 TEL: 045-412-2255  
携帯: 090-8580-5348  
FAX: 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
- E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)
- やどりき水源林までの道順  
小田急線新松田駅または JR 御殿場  
線松田駅下車、富士急湘南バス「寄  
(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス  
下車後(案内板あり)川沿いに徒歩  
35~40 分。  
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

**イベント情報 & ご案内**



公開は5月10日から (5.10. ROADSHOW)  
主人公は、明日の自分のゆくえも決めきれない高卒ホヤホヤの  
18 歳男子・勇氣。 ひよんなことから生まれ育った都会から遠く離  
れ、携帯も繋がらない、コンビニも無い、若者もあんまりいない、  
山奥の村で林業に従事することに。危険と隣り合わせの超重労働  
に心は一瞬で折れ、すぐにでも逃げ出すつもりだったのだが…。  
気の強い美人に恋したり、変わり者だらけの村の住人たちを好き  
になったり、山で不思議な体験をしたり、自然の絶大なる存在にか  
けがえのなさを感じてしまったり。  
そして、なんといっても、今切り倒した木は自分達の祖先が植え  
たものであり、今植えた木を切り倒すのは自分達の子孫であるとい  
う、100 年先を見据えた、気の長い“未来を作る”仕事—【林業】  
の魅力に、勇氣は次第に気付いていく—。

**映画の紹介**

『 WOOD JOB ! 』

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集して  
います。

<広報全般についてのお問い合わせ>  
松本 保

Mail: [matsutam@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutam@jcom.home.ne.jp)  
Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865  
横浜市神奈川区片倉 2-1-50  
Tel: 090-6150-6173

Mail: [s\\_akasaki-k\\_instructor@live.jp](mailto:s_akasaki-k_instructor@live.jp)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保  
〒246-0037  
横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17  
Fax: 045-301-9401  
電話連絡先: 090-7962-3168  
Mail: [matsutam@jcom.home.ne.jp](mailto:matsutam@jcom.home.ne.jp)

【別冊】水口 俊則  
〒250-0871  
小田原市下堀 123  
Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: [minagold109@kjd.biglobe.ne.jp](mailto:minagold109@kjd.biglobe.ne.jp)

【CCで】竹島 明  
〒238-0045  
横須賀市東逸見町 3-7  
Tel/Fax: 046-825-9281  
Mail: [2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp](mailto:2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp)  
原稿は随時受け付けています。

**編集後記**

★ついにこたつをしまいました。夏が待ち  
遠いです。 (赤崎)

★楽しみにしていた春のにぎわいも、足  
を怪我してしまい、今は、仲間からの写真  
だよりで春を楽しんでいます。 (水口)

★鳥のお話が 10 年余も掲載されました。そ  
の継続と知識の豊富さに圧倒されました。  
煎じて飲みたいものです。(小沢)

★会員の皆さんには大変ご心配を掛け申し  
訳ございませんでした。まだ投薬中ですが、  
ぼちぼち活動に参加出来る身体に回復して  
きました。皆さんと一緒に汗が流せる日を心待ちして  
います。これからもよろしく(徳岡)

★長年広報に携わって頂いた鈴木松弘氏  
(5期、主に写真担当)が広報より離れます。  
長い間ごありがとうございました。  
また、徳岡氏(11期)が復帰いたします。  
(松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方  
は、郵便局備付けの郵便振替を利用  
してお申し込み下さい。  
郵便振替口座 00230-0-2454  
かながわ森林インストラクターの会宛ま  
で購読料年2000円をお振込み下さ  
い。振替用紙には、必ず、住所、氏  
名を明記して下さい。  
振替用紙到着の翌月号から12回/  
1年間お届け致します。  
(頒 価 200円 送料共)

編集人: 松本 保  
事務局: 竹島 明  
広報部: 小沢章男 水口俊則  
鈴木 朗 徳岡達郎 大塚晴子  
加藤愛子 赤崎さほり  
支援 伊藤恭造 川森健司 谷川 克  
(スタッフの出入が、次号にも掲載となります)

**かながわ家づくりフェア 2014 開催!** 主催: 神奈川新聞社 & かながわ木づかい協議会

\* (かながわ森林インストラクターの会のグッズ販売もあります)

【開催日程】5月31日(土) 10:30~17:00 【開催場所】横浜産貿ホール マリネリア

【主催】神奈川新聞社、かながわ木づかい推進協議会

<事前申し込み受付中> 事前申し込みいただいた方には、招待券をお送りします。

招待券をお持ちいただき、ご来場された方全員に QUO カードをお渡しいたします。

<申し込み方法> [家づくりねっとお問い合わせフォーム](#)より、フォーム内容すべてを  
記入し、お問い合わせ内容を「家づくりフェア申し込み」とご記載し、お申し込みくだ  
さい。複数人でのご参加の場合、その旨も明記ください。

<ハガキ・FAX からもお申し込み可能です。>

①郵便番号②住所③氏名(複数の場合、全員の名前も明記)④年齢⑤電話番号を明記し、  
下記宛に申し込みください。

【ハガキ送付先】〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社 クロスメディア営  
業局内「神奈川の家づくりねっと事務局」宛【FAX送付先】045-227-0765